

庭めぐり

河村郁子

去年今年さ庭飾りし千両の朱の実活けぬ正月花に

年明けて五日も経たぬに白頭鳥ひよどりが朱の実啄みつくし終ひぬ

常の餌を忘れし咎かと思へども番のひよどり訪ひくるを待つ

苗木より育てし紅梅枝ごとに蕾べにいろ並みゐて紅色ほのか

たがふなく立春に開く一輪が律儀に在りし長姉のごとし

真夜の雪枝に残して朝かげに紅と白との色ひびき合ふ

春立てど寒波乾燥にもめげず如月なかばに満と開けり

わが背丈ほどの木なれば真向ひて咲きの盛りの薫りふくいく

海棠はいまだに小さき蒼もて日ごとふくらみゆくを嬉しむ

庭隅の白き花芽の沈丁花 後ジテとして控ふるごとし